

# 2016年4月13日(水) 創立記念イベント徹底解剖!!



東京医科大学

教職員  
学 生  
対 象

18:00 開演

\* 2部構成/合計1時間  
程度を予定しています

大学病院  
本館6階 臨床講堂

全キャンパス中継

## 創立100周年記念講演

特別講演

記念講演

塩崎恭久 厚生労働大臣

2035年、日本は健康先進国へ。  
「保健医療2035と医療改革の展望」

現役厚生労働大臣に、少子高齢化社会に  
わが国の保健医療システムがどう対応  
していくのか、これからの20年の医療  
制度改革について講演していただきます。



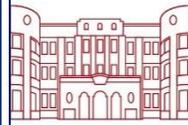
臼井正彦 理事長

「東京医科大学中長期計画  
2016-2025」

次の100年に向けて、  
東京医科大学が、これ  
からの最初の10年を  
どのように歩むことに  
したのか、その計画を  
発表します。



100周年かわら版



2016  
(平成28年)

第13号

発行:東京医科大学創立  
100周年事業広報委員会

事務局:法人経営企画・広報室  
☎03-3351-6141(内線298)  
✉keiei@tokyo-med.ac.jp

東京医科大学  
創立100周年記念特設サイト  
http://www.tokyo-med.ac.jp/100years/

創立100周年を迎える  
2016年4月13日まで  
あと 14 日

▼△▼その他にも企画いろいろ!「創立記念日」に参加しよう!▼△▼

4月13日「歴史史料展示室」  
教育研究棟(自主自学館)1階にOPEN!!

昨年3月に発足した「歴史史料室整備委員会」において、学生の自校教育に力を入れるべく、大学病院敷地内にある教育研究棟(自主自学館)の1階ロビーに、歴史的史料を教職員が自由に閲覧できるスペースを作りました。年表の掲示だけでなく本学の歴史を語る上で欠かせない血判状のレプリカも展示。これは、本学関係者なら一度見ておくべき一品です!建学当時の学生団や学祖高橋琢也先生の熱い想いを、感じてください。



問合せ:図書館本館(内線5625)

13:00 開演  
八王子医療センター  
手術棟3階 講堂

医学科  
新入生  
対 象

森千里氏 (千葉大学大学院  
医学研究院 教授)

曾祖父は東京医学講習所の設立に顧問とし参画した森鷗外。新入生オリエンテーションの一環として講演していただきます。



東京GOOD NEWS

医師国家試験合格率過去最高記録!!  
全体 **98.5%** (新卒 **99.2%**)

本学が創立100周年を迎えた2016年実施の「第110回医師国家試験」で、本学の合格者数(総数)は132名で全国80医科大学中「第1位」、合格率(総数)は98.5%で「第3位」でした。

また、新卒合格者数は、126名で私立医科大学29校中「第1位」、合格率は99.2%で「第4位」でした。

医師国家試験合格率(新卒)

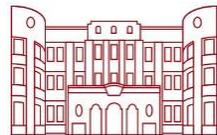


連載企画

歴史に学び、  
歴史を創る。

## 霞ヶ浦看護専門学校特集

### 第9章 霞ヶ浦看護専門学校の役割



#### 霞ヶ浦看護専門学校の役割

昭和37年(1962)、霞ヶ浦病院(現 茨城医療センター)では、病院の発展に伴う看護婦不足を解消するため、准看護婦の養成を始めた。当初は生徒を募集し、土浦医師会附属准看護婦学校で教育を受けさせていた。しかし昭和40年代後半になっても、茨城県土浦市や稲敷郡には、准看護婦から看護婦になるための進学課程のある学校がほとんどなく、地域医師会からの強い要望もあり、本学としても霞ヶ浦病院に勤務する准看護婦の勤務意欲の向上、看護体制の強化をはかるべく、進学課程の学校設置の必要性が検討された。

その結果、**昭和50年(1975)4月、学校法人東京医科大学附属霞ヶ浦高等看護学校**を開校することとなった。当初は、2年課程で定時制夜間の学校で、昼間、霞ヶ浦病院で勤務する准看護婦が、夜間に学校に通い、まさに“自主自学”の精神で、看護体制の強化を実現したのである。



霞ヶ浦高等看護学校開校祝賀式・第1回入学式(昭和50年4月)

その後学校教育法の改正に伴い、専修学校に移行。**昭和53年(1978)、東京医科大学霞ヶ浦看護専門学校に改称し**、あわせて夜間部を昼間定時制に変更した。昭和60年(1985)3月には、現在の校舎が竣工、5月には創立10周年を記念し、落成式も挙行され、昭和63年(1988)には、3年課程に変更された。

また当初40名でスタートした定員は、**平成20年度に70名に増員**、多くの優秀な看護師を輩出し、地域に貢献している。

このように霞ヶ浦看護専門学校は、**地域のニーズに添えてできた地域の看護師養成学校であると同時に、大学の附属病院である「茨城医療センター」において、高度医療の運用と地域医療への貢献を推進できる看護師の養成の場**という二つの役割を担っているのである。

【参考文献】 ○東京医科大学報 第89号  
○東京医科大学霞ヶ浦病院創立50周年記念誌  
○東京医科大学七十年史 ○東京医科大学八十年史

(監修：東京医科大学図書館)



旧校舎



新校舎  
(昭和60年3月竣工)

連載企画 鈴木学長が語る

## 耳からウロコ Vol.3

「都心の自然がくれるチカラ ～67年分の記憶を糧に～」

最近、春夏秋冬の変化が少なくなったように感じます。気候の良い春は短く、夏はいつまでも残暑が厳しく、秋がきたと思えばすぐ寒くなり、冬が訪れます。それでも、心に余裕があれば、都心にながらでも十分に季節の移ろいを感じる事ができます。私が通勤よく歩く新宿中央公園前でも、冬は木の葉がすっかり落ちて裸になりますが、桜の頃から新芽が吹き始め、木々に緑のぼかしが入ったようになります。まもなく目の覚めるような緑に変わっていき、見ているだけでこちらも元気が出てくるようになるのです。



長年、耳鼻咽喉科を専門としてきた鈴木学長が現場を回って、その聴力と嗅覚で発見した東京医大のイトコロを紹介。

ところで、以前から大学キャンパスの南側にある数本の巨木が気になっており、周りの職員に聞いたところ、「東京医科大学五十年史」の記事を紹介されました。昭和28年卒の白石和先生が書かれた「我が在学時代の思い出」というエッセイです。それによると、これらの木々は、昭和24年(1949年)に「戦後の焼け野原に少しでも緑の潤いを」との願いで植樹されたそうで、学生たちが全員で穴を掘り、水運び1本1本植えたとのことです。ちょうどこの年は私が生まれた年でもあり、余計に親近感を覚えるようになります。以来、立派な樹木に成長し、東京医大に自然の潤いを与えるとともに、学生や職員たちを見守ってきたことになりました。これからもそんな巨木たちに恥じない東医人でありたいと思います。(学長 鈴木 衛)

えんがわ広報。 あつという間の27年度だったニヤ。

「継続は力なり」という言葉がありますが、これを実行することはたやすいことではありません。この3月に卒業した医学部の学生さん達が受験した第110回医師国家試験の結果は、本学において過去最高の合格者数・合格率となり、6年間積み重ねてきた頑張りや、まさに「継続は力なり」を証明してくれたのだと思います。新天地でスタートする皆さんのこれからの活躍に期待しています！さて、あと14日で、100年目の創立記念日。カウントダウンリレーもあと少し！4月から入職する教職員、入学する学生の皆さんに加え、本学の教職員、学生、関係者の方々、総勢約7,000人で迎える本学100年目の誕生日を是非みんなでお祝いしましょう♪(R)

100 近未来 動 静

4月 27日 創立記念日

3月 13日 西新宿駅の大学病院看板を百周年デザインに変更

新大 学 院 起 工 式

## Pick Up! 東京医科大学 PR Movie完成!!

創立100周年を迎え、学外にPRする機会の増えるこのタイミングに、**東京医科大学を手軽に紹介できる4分PV**を制作しました！本学の「**名刺代わり**」にぜひ、ご利用ください！



【利用シーン例】

- ・市民公開講座等の講演会
- ・入職説明会 ・進学説明会
- ・学会 等各種イベントにて

【利用開始】平成28年4月13日～

ご利用になりたい方は法人経営企画・広報室(★)迄ご連絡ください。DVDを貸し出し致します。(内線298)